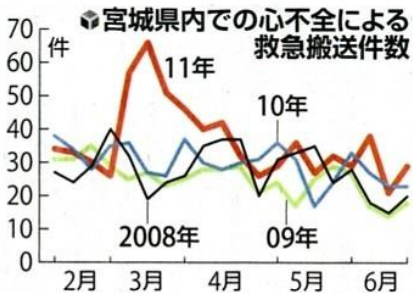


# 心不全救急搬送 震災後2倍に



東日本大震災後3週間に宮城県で心不全で救急搬送された件数が、震災前の2倍程度に増えていたことが、東北大の下川宏明教授（循環器内科）らの調査でわかった。避難生活のストレスで血圧や心拍数が上昇するなど、負担が続いたことが原因としている。地震の影響による心血管疾患の急増がデータで示されたのは世界でも例がなく、ドイツで開かれている欧州心臓病学会で28日に発表される。

## 宮城県内 東北大が調査

昨年2月11日～6月30日と、震災前の2008～10年の同期間に県内で救急搬送された計約12万4000件を分析。震災後3週間に心不全で救急搬送されたケースは計174件で、震災前の同時期の75～89件と比べると2・3～1・9倍だったことが判明した。その後の3週間も10件前後多めで推移し、7週目で震災前の水準に戻った。

脳卒中も震災後2週間は1・8～1・4倍。震災後3週間で震災前と同水準に戻ったが、昨年4月7日に最大震度6強の余震が起きると、再び増加に転じた。

心臓病や脳卒中中の搬送件数は、沿岸部と内陸部、年齢・性別にも差はなかった。下川教授は「震災のストレスは津波被害を受けた沿岸部だけでなく、内陸部でも老若男女を問わず甚大だった。家庭での災害対策や、避難所の健康支援策などを考え直す必要がある」と指摘している。

## 読売新聞

### 毎日新聞

#### 震災直後、脳卒中急増

搬送114件「ストレスで血圧上昇」 東北大調査

東日本大震災による昨年3月11日の震度7の激震と、約1カ月後の震度6強の余震の直後、宮城県内の脳卒中による救急搬送が急増していたことが27日、東北大の下川宏明教授（循環器内科）らのグループの調査で分かった。地震の揺れが脳卒中患者の増加に関係することを示すデータは初めてという。

震災直前の11年3月4～10日、脳卒中の救急搬送数は70件だった。震災直後の11～17日は114件に急増。4月上旬には平年並みに戻ったが、4月7

2012年(平成24年)8月28日朝刊  
※転載許可取得済み

日に震度6強の余震が発生すると、同月8～14日は前年同期比21・8%増の78件、15～21日には同15・7%増の103件に。下川教授は「強い揺れによるストレスが血圧を高め、脳卒中を誘発したとみられる」と分析する。調査は、11年2月11日～6月30日の、県内12消防本部の救急搬送記録を分析。08～10年の同期と比較した。これまでの調査で、震災発生後4週間で、心不全と肺炎による救急搬送人数が震災前より倍増していたことも明らかになっている。

また、震災直後の脳卒中や心不全の増加の比率は、津波被害が大きかった沿岸部と揺れの被害だけだった内陸部で大きな差がなかったといい、下川教授は「津波被害がないエリアにも、揺れという震災の大きな被害はあった。今後、震災が発生したら、津波がない内陸部にも医師の巡回が必要」と提言している。